

広島県地球温暖化対策実行計画（第1期）における実態調査結果について

1 平成16年度における結果について

項 目	単位	目標（H16年度） 基準年度（H10） に対する削減率	基準年度 〔 H10 〕 年度	前年度 〔 H15 〕 年度	H16年度		
					H16年度	前年 度比	基準 年度比
1 電気使用量	千 kwh	- 5 %以上	93,244	103,838	107,147	103.2	114.9
2 エネル ギー供給 設備等燃 料使用量	重油	- 6 %以上	2,740	1,972	1,915	97.1	69.9
	灯油		1,666	1,608	1,431	89.0	85.9
	L P G		218	190	192	101.0	88.1
	都市ガス		5,604	4,248	4,430	104.3	79.0
3 公用車使用燃料	千リットル	- 10 %以上	3,181	3,613	3,208	88.8	100.8
4 二酸化炭素の排出量	CO2-t	- 6 %	64,618	68,240	68,322	100.1	105.7

）二酸化炭素排出量は、1～3の使用量を二酸化炭素の量に換算したものである。

エネルギー供給設備等燃料使用量については、全て目標を達成した。

電気使用量、公用車使用燃料及び二酸化炭素の総排出量は、基準年度に比べて増加しており、目標を達成することはできなかった。

2 計画期間における使用量等の推移

(1) 電気使用量（目標：基準年度比 5 %以上）

	単位	H10年度	H12年度	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度
電気使用量	千 kwh	93,244	96,432	101,682	103,459	103,838	107,147
前年度比	%	-	100.7	105.4	101.7	100.4	103.2
基準年度比	%	-	103.4	109.0	111.0	111.4	114.9

電気使用量は、計画期間中、増加の一途をたどっており、その主な原因としてOA機器の導入等、高度情報化への対応が挙げられる。

また、事務の効率化等のための電気機器が増加したことも電気使用量の増加につながったものと考えられる。

(2) 重油使用量（目標：基準年度比 6 %以上）

	単位	H10年度	H12年度	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度
重油使用量	千リットル	2,740	2,923	2,868	2,998	1,972	1,915
前年度比	%	-	98.1	98.1	104.5	65.8	97.1
基準年度比	%	-	106.7	104.7	109.4	72.0	69.9

重油使用量は、平成14年度までは基準年度を上回っていたが、県立広島病院のコージェネレーションシステムの導入や県庁本庁舎のボイラーの更新等により平成15年度以降は減少している。

ただし、コージェネレーションシステムは、燃料を重油から天然ガスへ変更するものであり、重油使用量の減少になる反面、都市ガス使用量が増加するため、変更に伴う効果測定を行うには、温室効果ガスの排出量をもって比較する必要がある。

(3) 灯油使用量（目標：基準年度比 6 %以上）

	単位	H10年度	H12年度	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度
灯油使用量	千 kwh	1,666	1,785	1,684	1,748	1,608	1,431
前年度比	%	-	93.2	94.3	103.8	92.0	89.0
基準年度比	%	-	107.1	101.1	104.9	96.5	85.9

灯油使用量は、平成14年度までは基準年度を上回っていたが、平成15年度以降は減少傾向にある。主たる要因は、教育委員会（県立高校）における使用量の減少が挙げられる。

(4) L P G 使用量 (目標: 基準年度比 6%以上)

	単位	H10 年度	H12 年度	H13 年度	H14 年度	H15 年度	H16 年度
L P G 使用量	千m ³	218	198	198	189	190	192
前年度比	%	-	95.7	100.0	95.5	100.5	101.0
基準年度比	%	-	90.8	90.8	86.7	87.2	88.1

L P G 使用量は、計画期間中、ほぼ横ばい状況であった。

(5) 都市ガス使用量 (目標: 基準年度比 6%以上)

	単位	H10 年度	H12 年度	H13 年度	H14 年度	H15 年度	H16 年度
都市ガス使用量	千m ³	5,604	3,513	3,388	3,321	4,248	4,430
前年度比	%	-	72.5	96.4	98.0	127.9	104.3
基準年度比	%	-	62.7	60.5	59.3	75.8	79.0

都市ガス使用量は、広島ガスが天然ガス化を進めたことにより、平成 14 年度まで使用量が減少していたが、県立広島病院のコージェネレーションシステムの導入により平成 15 年度以降は増加している。

都市ガスの天然ガス化は、単位容積当たりの燃焼カロリーが増加するものであるため、使用量の減少が取組の効果と連動しているかどうか判断することは困難であり、温室効果ガスの排出量をもって比較する必要がある。

(6) 公用車燃料使用量 (目標: 基準年度比 10%以上)

	単位	H10 年度	H12 年度	H13 年度	H14 年度	H15 年度	H16 年度
公用車燃料使用量	千リットル	3,181	3,182	3,251	3,465	3,613	3,204
前年度比	%	-	102.5	102.2	106.6	104.3	88.6
基準年度比	%	-	100.0	102.2	108.9	113.6	100.5

公用車燃料使用量は、機関統合に伴う管轄区域の拡大による走行距離の増加や警察本部における各種取締り強化に伴う走行距離の増加等により、平成 15 年度までは増加の一途をたどっていた。

平成 16 年度では、低公害車の割合の増加、業務量の減少、公用車関連業務の委託等に伴い、公用車燃料使用量は初めて減少に転じた。

(7) 二酸化炭素排出量 (目標: 基準年度比 6%)

	単位	H10 年度	H12 年度	H13 年度	H14 年度	H15 年度	H16 年度
電 気	CO ₂ -t	35,806	37,030	39,046	39,728	38,278	39,546
重 油	CO ₂ -t	7,392	7,887	7,738	8,089	5,319	5,165
都 市 ガ ス	CO ₂ -t	6,902	6,612	7,012	7,478	9,725	10,144
公用車燃料	CO ₂ -t	7,561	7,571	7,731	8,230	8,581	7,613
そ の 他	CO ₂ -t	6,957	7,316	6,383	6,808	6,337	5,855
計	CO ₂ -t	64,618	66,416	67,910	70,333	68,240	68,322
前年度比	%	-	99.9	102.2	103.6	97.0	100.1
基準年度比	%	-	102.8	105.1	108.8	105.6	105.7

二酸化炭素排出量は、電気使用量の増加を主たる要因として、平成 14 年度まで増加傾向にあった。

平成 15 年度においては、冷夏であったことや、O A 機器の整備が一段落を迎えたことにより、電気使用量が減少し、二酸化炭素排出量も計画期間内で初めて減少に転じた。

平成 16 年度は夏が猛暑であったが、各種取組の効果もあり、通年では前年度並みの排出量で推移した。

3 今後の取組

平成 17 年度から平成 22 年度を計画期間とする第 2 期計画においては、目標を温室効果ガスの排出量の削減に特化し、次の取組を進める。

電気の使用や燃料の燃焼に伴う温室効果ガスの排出量を削減するため、省エネ機器への設備更新や E S C O 事業の導入などハード面からの取組を推進する。

オフィスコスト節減対策推進会議と連携しつつ、空調の温度管理の徹底や待機電力のカットなど、省エネルギー・省資源へ向けた普及啓発に努める。